



愛知ブランド認定企業 座談会開催！

～ものづくりにおける独自の強みと優れた企業活動～

本所では、8月3日、オリバー本社（岡崎市藪田）にて平成15年度に愛知県が創設した「愛知ブランド企業」に認定された岡崎市内4社（愛知県下59社）の経営者を招き、愛知ブランド応募のきっかけや受賞の秘訣、また独自の技術やサービスなどについて座談会を開催しました。

<質問内容>

- 愛知ブランド企業認定応募のきっかけは
- 会社のホットな話題、独自の技術・サービスとは
- 皆さんが考えるブランドの価値とは 等



株式会社オリバー
取締役副社長 中根研吉氏

“重要なのは、全国ネットワークを駆使したニーズの迅速な具現化”

ものづくりが盛んな愛知において、家具装備品の一社として認定されたことを非常に嬉しく思っています。応募のきっかけは、今の私たちがどのようなポジションにいるのか改めて確認したいとの想いからです。

最近の話題と課題は、中部国際空港のロビーや、来年竣工される国の迎賓館にわが社の製品が納入されますが、そこでいかに快適な空間が提供できるかということです。モノを売るだけではお客様の満足を得ることはできません。我々の製品は不特定多数の方が数多く利用されますので、いろんな問題が起きる場合があります。これらにいかにか早く対応するか。全国に構築されたネットワークを有効に活用し、お客様の意見を汲み上げ、それを形にする、迅速に対応する仕組みをつくるのが重要です。

ブランド価値とは、個人的にはある意味の無形資産と考えています。安心や信頼の証であり、ヒトの心に訴えるものだと思っています。

株式会社オリバー

業務用家具を中心とした家具インテリアの企画・設計・製造・卸。最近では、医療・福祉分野にも注力するとともに、首相官邸への納入や、サハリンエナジーへ国際入札にて住宅用家具7,000点を納入など、活発な市場開拓を展開。

<http://www.oliverinc.co.jp/>



東海光学株式会社
代表取締役社長 古澤武雄氏

“開発力を上げるには、いい人材を投入し、いいニーズを掴み、それを実用化すること”

眼鏡レンズの専門メーカーとして、ガラスレンズの時代から開発・製造・販売の全てを一元化していることに関して評価いただいたと思っています。

一番大事なことは消費者にどう密着していくかで、お客様の声を素直に受け止め、解決に向け新技術の開発を進めています。一番最近では、傷に強くよごれが付きにくいコーティングのレンズを開発しました。これは業界初だと思っています。

今、私どもの会社には、開発要員として45名ほどいます。社員が全部で450名でその1割が開発担当となりますが、重要なのはどれだけ優秀な人材を投資するか、それと同時にこういった商品が求められるか、そしてどうやったら実用化できるのか。この3つを組み合わせることによって開発力が上がり、ひいては、中小中堅企業がこれからものづくりで生き延びていくための重要な要素と考えています。

東海光学株式会社

国内唯一の眼鏡レンズ専門メーカー。ガラス、プラスチックレンズの素材開発から設計、二次加工、販売までの一貫体制により国内シェア15%。また最近では多層誘電体光学薄膜加工技術を用いた光学部品加工技術を開発・事業化。

<http://www.tokaiopt.co.jp/>

“セオリーは、オンリーワン商品を目指したものづくり”

応募のきっかけは、当社の事業が外部の方に認知されるかどうかまず知りたかったからです。認定されてからは、いろいろな方が当社に足を運ばれ、以前とは違った交流も生まれました。

私どもはドイツのバイエル社と技術提携し、特殊ウレタンを自社で作る技術や設備をもつようになりましたが、新しい技術を習得することによって、将来に向けた様々な展望が

株式会社前田シェルサービス

シェル中子のメーカーから発展し、現在、圧縮空気用精密フィルターが主力製品。フォークリフト廃タイヤの再生技術、超軽量担架、抗菌ハンマー等の数々の独自製品開発を積極的に推進している。海外大手メーカー数社とも技術提携している。

<http://www.maedauni.co.jp/>

拓けてくると思います。独自の技術としては他にも、モータースポーツF1用の金型や超精密な金型に取り組みたり、おそらく世界で一番軽い超軽量カーボンステッキや超軽量担架の開発生産に取り組みでまいりました。開発生産まで大変な費用がかかりましたが、日々開発に努力してきたことが認定につながったのかもしれない。

非常に特殊な分野だけを常に狙っていこうというのが私のセオリーで、オンリーワン商品を創っていく考えのもと、今後もものづくりを進めていきます。



株式会社前田シェルサービス
代表取締役社長 前田真夫氏

“新商品のきっかけは、皆さんの期待と要望から”

愛知ブランドは、私たちのような地域に密着した会社にとってはいいチャンスであり、認定されたときは大変嬉しかったです。岡崎の八丁でつくる味噌だからこそ岡崎の宝とも言えますし、これを愛知県、日本のみならず世界全ての国に紹介したいとの想いをずっと抱いています。現在では世界約25カ国に輸出しており、10数年ほど前からユダヤ教で推奨する食品の認定も取得しました。先日も、アメリカのユダヤ教徒の方が厳しい食の戒律に適合する品質が保たれているか検査のため視察にみえました。岡崎とユダヤの関係について

株式会社まるや八丁味噌

1337年の創業から伝えられている八丁味噌の伝統的な味・製法を受け継ぐ一方、最新の技術を導入。ISO9001も取得し、最新の経営スタイルも導入している。

<http://www.8miso.co.jp/>

てマスコミヤ日本各地からも問合せをいただき、八丁味噌が世界に出て行くことの喜びは大変大きなものです。

小さいながらも皆さんが大きな期待を寄せてくれるこのような企業があるのかな、という意味では大変嬉しく、新たな商品を出すきっかけにも繋がります。岡崎から世界に向けて健康を発信していくことが八丁味噌のブランドだろうと思います。



株式会社まるや八丁味噌
代表取締役社長 浅井信太郎氏



岡崎商工会議所会頭
大川博美

“企業の成長に必要なもの、それはブランド”

岡崎経済界は、中小零細企業が多いため景気が上向きになりつつあるなかでも依然厳しさを感じます。

今回、愛知ブランドに認定された4社の経営者にお集まりいただきましたが、企業が成長するということは、企業独自のブランドが必要だと思っています。会員企業の皆様には、独自の強みを得るきっかけとして愛知ブランドに挑戦していただき、結果、そのような認定企業が岡崎から続出することを願っております。

“愛知のものづくりを世界に向けて情報発信” 愛知県産業労働部次長 加藤義晴氏

愛知は製造品出荷額が26年連続して日本一で、平成14年の統計では34兆5,000億円。この中には、オンリーワン企業やナンバーワン企業が数多く存在し、このような企業が愛知ブランドの認定企業になることで愛知の製造業の知名度が向上し、ひいては競争力の強化、販路拡大に結び付くのではないかと考えています。また、優れた“ものづくり企業”をベースとした愛知のものづくりを世界に向けて情報発信していくことで、営業活動に結び付けていただきたいと思います。

愛知ブランドの詳細に関しては愛知県ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.aichi.jp/shinsangyo/aichibrand/>

会社紹介参考：愛知県ホームページ

<文責：事務局>